地

理

はじめに

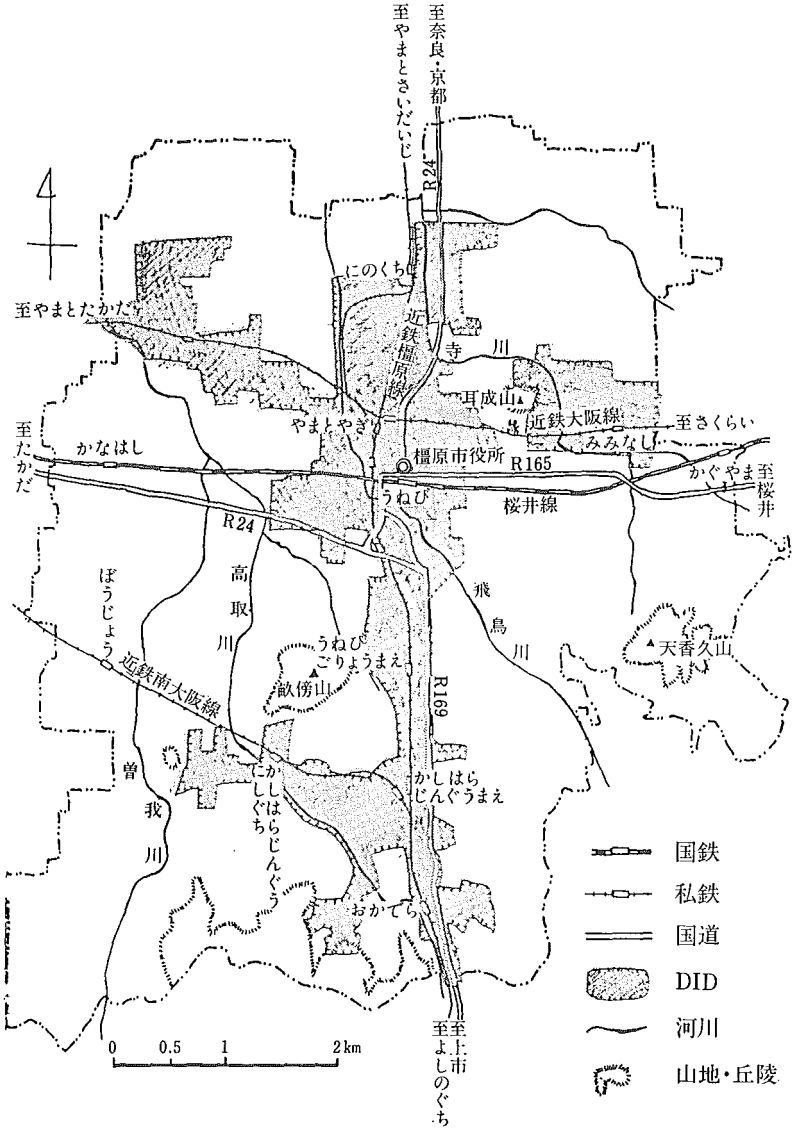
橿原市は奈良盆地の南部に位置する。大和三山に囲まれた空間は、先史時代には山麓部から盆地中央部へ居住空間が拡大するさい、拠点になったと思われる多くの遺跡を見出すことができ、古代には飛鳥、藤原京の古代王朝のフィールドにもなった。また、奈良時代には下ッ道と横大路の基幹道路が交差するところとなり、それがもたらすすぐれた地理的位置は、中世、近代、そして現代にまで継承されている。八木や今井の町場的集落や条里制地割に乗った塊村状の農村集落の散在する景観は、そのような歴史と伝統が生み出したものであり、今日の鉄道網や道路網の結節点としての機能といちじるしい都市化はそれらの伝統性とすぐれた地理的位置の反映ともいうことができる。

この橿原市は、戦後昭和三〇年代の後半から飛躍的に発展することとなった。高度経済成長の下で、大阪大都市圏が拡大する中で、そのすぐれた地理的位置と交通条件が評価され、多くの人々を集めることになったためである。その結果、かつて人口数万人にすぎなかった町が今や一〇万人を越え、奈良県下では奈良市に次ぐ第二の地位を確実なものとした。そのため、住宅都市としての機能に加え、さまざまな都市的機能も付加するようになり、県南部の中心都市へと脱皮しつつある。

この二〇年あまりの変化は、橿原市にとって、有史以来の一大変化といっても過言ではない。そのため、多様な側面での変化と再編成が急速にすすんだ。

このような変化過程の記録とそれに関する若干の考察を加えておくことは、当市の今後の発展方向とその方法を模索する上でも十分価値のあることであろうと考える。

地理編としては、以上の変化と再編成化が土地に刻んだ部分を中心にまとめることとした。そこで、前回の市史刊


至奈良・京都
至やまとさいだいじ
R24
にのくち
至やまとたかだ
近鉄橿原線
寺
川
耳成山
近鉄大阪線
至さくらい
やまとやぎり
みみなし
至たかだ
かなはし
橿原市役所
R165
かぐやま
至桜井
うねび
桜井線
R24
飛
鳥
川
ぼうじょう
高
取
川
うねびごりょうまえ
畝傍山
天香久山
近鉄南大阪線
R169
曽
我
川
にかしはらじんぐうまえ
かしはらじんぐうまえ
おかてら
至上市
至よしのぐち
0
0.5
1
2km
国鉄
私鉄
国道
DID
河川
山地・丘陵

橿原市地域概況図

行以降の変化の記録に重点を置くこととし、同時に、住宅地開発にともなう遺跡や諸史料の発掘等によって、あらたに浮かび上ってきた歴史的空間の形成に関する新たな成果も記録することとした。

そこで、地理編は大きく二部に分けた。第一部は「自然環境と歴史的地域の形成」というテーマで、橿原市をフィールドとする自然環境とそれと深い関係をもつ考古空間の形成、古代・中世の地域プランや道路、近世の所領形成と村落のまとまり、商業集落の形成や機能などについて、新たな成果もふまえ、それぞれの専門研究者の手による歴史地理学的なアプローチでまとめた。また、第二部は、「高度経済成長期以降の発展と再編成」というテーマで、近年の二〇年余りの最も急激に変化した部分を、人口、宅地化、土地利用、都市機能、産業などの諸側面から地理学的なアプローチでまとめた。第一、二部とも相互に密接な関係を有することも知っていただけたら幸いである。

これらのうち、第二部と第一部の若干については、愛知大学文学部地理学専攻学生諸君二〇余名の現地調査による協力を得た。調査は昭和五十九年七月下旬に一週間ほど一斉に行なわれ、その後も補足調査が行なわれた。調査に当っては多くの市民の方々や関係機関の御協力を得ることが出来た。心よりお礼申し上げたい。

（藤田佳久）